ヴィーナス通信

Venous（静脈）Venus（護美の女神）

商標登録第 4882482 号

第61号

（新年号）

発　行　東多摩再資源化事業協同組合
理事長　吉浦髙志　編集長　紺野琢生
東京都東村山市久米川町１－16－18
ＴＥＬ：　042－395－9788
ＦＡＸ：　042－395－9787

謹賀新年

明けましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、二〇一四年の資源業界や当組合も様々な動きがあった。

一つは、古紙の発生量の激減だ。スマートフォンの普及に伴い、新聞・雑誌の発刊部数の減少は勿論、４月の消費税増税以降の景気低迷による広告の減少、個人情報漏えい問題に端を発するダイレクトメールの減少など、古紙の発生減が肌で感じられるようになった。

金属類についても同様で、建設関連、機械関連の景気回復が待たれる状態だ。アベノミクス第３の矢によって、地域経済が本当の意味で回復するのを期待する。

次に、相場の内外格差の拡大である。円安による輸出価格の高騰に対し、国内メーカーは原料価格の値上げを渋っており、その格差が広がっている。資源物の発生減により需要は逼迫しており、国内価格は二重三重になっているとも言われている。需給調整や相場のリスクヘッジといった組合の担う役割は非常に大きいと感じた。

三つ目は、相変わらず横行する古紙持ち去り問題である。平成二五年の春以来、当組合でもＧＰＳ端末による調査を関連五市において継続して行っているが、五カ所の特定のヤードに持ち込まれており、関東商組からの再三にわたる警告にも関わらず問題解決には至っていない。ただ、一二月の調査では、新たな問屋への持ち込みも発覚した。東京特別区でも新たに一八区でＧＰＳ調査開始の締結式があり、その包囲網は徐々に広がっている。我々としても、市民、行政と連携した更なる持ち去り根絶に向けた取り組みが必要だ。

そして、新たな回収品目の拡大に向けた取り組みである。古布・古着においては、ぬいぐるみ、帽子、かばんについて、小平市、西東京市の行政回収と各市の集団回収で昨年一〇月から回収を開始した。全市で回収を拡大できるよう、本年も引き続き取り組んでまいりたい。また、各市リサイクルイベントを通じて試験的に取り組んでいるリユース拡大キャンペーンも引き続き実施する予定なので、組合ブースに足をお運び頂きたい。

最後に、やはり東村山市の資源物の戸別回収化スタートとそれに向けての動きである。組合を挙げて何とか成功させようと様々な事態の想定、回収曜日や回収ルートの変更に向けた協議、ドライバーや補助員の増員、車両、機材、新しい指定作業着などの準備、運転者や回収補助員の教育訓練など様々な取り組みを一年かけて行ってきた。戸別回収化以来三か月が立つが、取り残しや回収後の時間外排出が散見されるものの、特に大きな事故や問題を起こすことなく業務を遂行することが出来、市民の皆様からも喜びの声をいただいている。戸別回収化は、行政にとってはコスト増、回収業者にとっては大変な手間の増加になるが、これからの時代のニーズであり、持ち去り対策としても有効であり（戸別回収の古紙を持ち去って売り買いした場合、故買になる）引き続き行政との連携を強化しながら安全で市民にも地球にも優しい業務の遂行に努めてまいりたい。

これからの資源業界は、発生元に対する排出方法やリサイクル可能品目のさらなる拡大といったサービス向上と、回収・加工後の資源のグローバル化に対応して行く必要がある。二〇一五年も引き続き調査、研究を続け、時代のニーズに合った組合の運営を行ってまいりますので、変わらぬご指導・ご鞭撻の程、宜しくお願いしたい。

理事長　吉浦　髙志

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

直言拝聴

「古紙の表と裏」

有限会社古紙ジャーナル社
代表取締役社長　本願　貴浩

古紙業界唯一の専門紙

古紙ジャーナルは古紙業界で唯一の専門紙であり、今から二十三年前の一九九二年に創刊した。創業者であり私の父である本願静雄（現顧問）は、紙の新聞、日報の循環経済新聞、日刊紙業通信と紙・リサイクル業界の記者として渡り歩いて独立をした。当初、独立心は全くなかったが、四十代に入り「もっと自分の意見を反映した新聞を作りたい」と思い立った。十六年ほど勤めた日刊紙業通信では、東京・名古屋・大阪と転勤を重ねる中で、主に古紙の担当だったことから、各地に懇意にしてくれる古紙問屋が増えた。仲の良かった古紙問屋の社長が、「古紙の専門紙があったら良いのに。本願さん、独立して作りなよ」と後押しを受けて創刊するに至った。現在でも様々な紙関係の業界紙があり、その数は百五十ほどあると言われているが、「古紙」だけに特化した業界紙は古紙ジャーナルだけ。ニッチな分野なので大手が参入できないことや、参入しても中々実態を掴めないことが主な理由。日本経済新聞をはじめ、読売、朝日などの大手新聞各社は実は古紙ジャーナルを購読しており、ワイドショーやＮＨＫから古紙関連の取材を受けることもある。

人間が生きていく上で必ず紙を使用するし、必ず古紙が出る。企業も事業活動を行う上で古紙は必ず出る。これはどんな生活をしている人間でも、どんな企業でもしかり。そういう意味では、古紙は全国民から排出されるものと言っても過言ではない。全国民が携わり、地域や生活に密着した古紙の業界で、唯一の専門紙を発行していることを誇りに思う。

一家庭からどれくらい古紙が出るか？

現在の日本の人口は一億二千七百三十四万人で、世帯数は五千百八十四万世帯。二〇一三年の古紙回収量が二千百八十六万トンだったので、単純に全人口で割った一人当たりの古紙回収量は年間一七一・七キロとなる。月間では十四キロ、一日では四百七十グラム。例えば四人家族で一ヵ月では、十四キロ×四人＝五十六キロ出る計算になる。え、そんなに出るかな？ちょっと多いのでは？と思った方は大正解。この古紙回収量には企業や工場やスーパー等から排出される事業系古紙や、印刷工場や製函工場等から排出される産業系古紙が含まれている。古紙は排出先の違いによって事業系古紙、家庭系古紙、産業系古紙の三種類に分けることができる。

古紙がどのように回収されたかというデータはない

日本でも諸外国でも同じことが言えるが、古紙がどのようにして集められたかということを網羅するデータはない。例えば日本では、行政回収はデータとして出る。集団回収は助成金を出している自治体はデータとして出てくるが、助成金がなしの自治体では数量を把握していない。新聞販売店回収は各社データとして持っているが、公表していない新聞社も多い。関西ではまだ主流のちり紙交換の回収量はデータとして全く出てこない。各業者が行っている戸別回収やポイント回収でも同じことが言える。つまり排出先別の古紙回収量全体の明確なデータはない。古紙回収量のデータというのは、実はメーカーに納入された段階での品種と数量、そして輸出入された品種と数量でカウントされている。

メーカーの消費量と輸出入量から算出

国内製紙メーカーの古紙消費量と貿易統計による古紙輸出量から、およその品種ごとの古紙回収量を算出することができる。これを当てはめていくと、段ボール一千四

十万トン（四八％）、新聞四百七十万トン（二二％）、雑誌・雑がみ三百八十万トン（一七％）、上物二百十万トン（一〇％）、その他八十万トン（三％）となる。全国で回収される古紙のおよそ半分が段ボールということになる。前述のようにこれは事業系・家庭系・産業系の全てを含めた古紙回収量である。

東京二三区の家庭系古紙の品種ごとの比率は？

この品種別古紙回収量を輩出先別に当てはめていくのだが、これが中々難しい。家庭系古紙を例にとると、家庭からは新聞六〇％：雑誌二五％：段ボール一五％という比率が主流だったが、時代とともに比率がやや変わってきている。手元に平成十八年度の全国の市部の古紙回収量の調査を行った時の資料があるので、そちらを参考にしたい。東京二三区における集団回収の品種ごとの比率は、新聞六一％、雑誌二五％、段ボール一四％だった。一方、行政回収では新聞三五％、雑誌三六％、段ボール二八％。古紙に少しでも携わっている方なら、この行政回収の比率がおかしいとすぐに気付くはず。行政回収の古紙はかなり持ち去られているので、このようなイレギュラーな数字になる。

東京二三区の持ち去り量は十八万トン

実際の数字でみると、平成十八年度の東京二三区の行政回収量は、新聞七・四万トン、雑誌七・八万トン、段ボール六万トンで計二十一・二万トンだった。段ボールが持ち去られるケースはほとんどないので、段ボールを実態に近い比率である一五％で当てはめると、持ち去られる前の回収量は三十九万トンになる。つまり十八万トンが持ち去られていることになる。そのうち新聞が十六万トン、雑誌が二万トンである。

表に出ない数字を推測・推定するのが面白い

このように古紙に関しては、表に出てくるデータと、表に出てこないデータがあるのが特徴であり、これを推測・推定するのが結構面白い。また近年はインターネットの普及によって新聞・雑誌の発行部数が激減しており、二〇〇〇年に比べて新聞と書籍の発行部数は一二％減少、雑誌の発行部数に至っては半分に減少している。その一方で雑がみの回収が増加しており、雑誌の中身が以前はマガジンや書籍が主流だったが、近年は雑誌の雑がみ化が進んでいる。

家庭から出る古紙は一人当たり月間四・八キロ、四人家族では一九・二キロ

話を排出先別の古紙回収量に戻す。このような様々な要素や表に出ているデータ、推定のデータを算出していくと、事業系古紙が千百五十万トン（五三％）、家庭系古紙七百四十万トン（三四％）、産業系古紙二百九十万トン（一三％）となる。四人家族の世帯から出る古紙の量が月間五十六キロは多いと述べたが、この家庭系古紙七百四十万トンを人口で割ると一人当たり年間五十八キロ、月間で四・八キロとなる。四人家族では一九・二キロとなる。これが実態に近い数字と言えるだろう。

潜る国内建値

古紙の価格についても、表に出ている面と出ていない面がある。リーマンショック前も同じ傾向にあったが、輸出価格が高騰しすぎると、国内製紙メーカーはプレミアム価格を付けて対応せざるを得なくなる。古紙回収量の七八％は国内製紙メーカーに、二二％は海外に輸出されているが、価格に関しては約二割の輸出価格の影響を多分に受ける状況となっている。二〇一三年秋からアベノミクス効果と消費税増税前の駆け込み需要により、紙・板紙需要が伸びた。また円安が進んだことによって輸出価格が高騰し、国内製紙メーカーはプレミアム価格による購入が常態化している。

国内製紙メーカーはどちらが得か？

実際、建値を一律に上げるのと縦線で各社に個別のプレミアム価格を付けるのとどちらが良いのかを大手メーカーに聞いたことがある。そのメーカーによると、トータルの購入価格はほとんど変わらないという。しかし大手問屋、納入が多い問屋は横並びだと納得をしてくれないとメーカー側の悩みを話してくれた。月五十トン入れている小規模の問屋と、月三千トン入れている大手問屋の購入価格が同じでは、やはり大手問屋としては納得がいかない。古紙は発生物であり、発生量が限られているという性質上、ボリュームが多ければ多いほど取引で有利という特質がある。つまり取引量が多ければ多いほど取引価格が高い。

このような背景が異常な高値入札などの仕入競争にもなっている。またそのことが全国の地域リサイクルシステムを崩壊しかねないとの懸念も広まっている。

東村山市資源物も　戸別回収開始

―当組合の取り組み―

昨年十月から東村山市でごみと資源物の出し方と回収日が変わりました。従来は資源物を「集積所」に出していただいていましたが、自宅前に出せる「戸別回収」に変更となりました。これはごみを集積所へ出すのではなく、各家庭の玄関先や集合住宅の前等、各戸ごとに出していただき、回収員が一軒ずつ回収していく方法です。

当組合では戸別回収開始の半年ほど前から準備を始め、この中で市との話し合いを重ね、また既に可燃ごみ、不燃ごみ、容器包装プラスチックの戸別収集を実施している東村山市環境整備事業協同組合との意見交換や回収車への体験乗車を行いました。

そして考えられる課題や問題点を検討し、回収作業員安全講習会を七月に続き、九月二六日(金)、東村山市民センターにて行いました。東村山市からは、資源循環部・間野雅之部長、ごみ減量推進課・内野昌樹課長、菅勝則主任にご出席いただきました。

まず、青年部・水野副部長が講師となり、回収の際の基本事項の確認として、車両及び装備品、運転者・補助員の服装や市民との対応、収集作業におけるルールについて説明し、また、共同受注検査活動もこれまで通り実施すること、これらの基本事項は各社で日常的に確認するようお願いしました。

次に、戸別回収化後の注意事項のまとめとして、紺野専務理事が講師となり、前回の講習時に受講者にアンケート形式で回答してもらった戸別回収で新たに発生する問題点の対処について説明しました。その後、戸別回収化後の組合でのサポートについて説明があり、各社内部は勿論、他の組合員や事務局が連携を密にして戸別回収を成功させるよう、呼びかけていました。

９月２６日に行われた
回収員安全講習会

その後の質疑応答では、各社の回収員の皆さんから想定される事態についての具体的な質問が相次ぎました。

最後に小畑副理事長より、「戸別回収開始直前で、不安もあると思いますが、戸別回収はこれからの社会のニーズであり、大多数の市民から好評を得られるので、成功させましょう。」と呼びかけ、講習会は無事終了しました。

さらに戸別回収開始を機に、ユニホームを、ブルーの上着とシャツ、帽子を揃え、市民が回収作業員と一見して分かって頂けるよう一新し、合わせて回収作業員の増員、回収車両の増車と車両にドライブレコーダー、バックアイカメラの搭載を改めて徹底し、現在では今まで以上に安全に回収作業を行っております。

新しい指定作業着

さて戸別回収を開始してから三ヶ月が経過し、市民の皆様は喜んで頂いていると市から報告がありました。そういった声は当組合や担当回収員には励みになり、遣り甲斐にもなります。

ここで当組合から、一つお願いがあります。**資源物は必ず回収日の午前八時までに分かりやすい場所にお出し下さい。**現状では午前八時までに資源物を出してもらえない事が多く、そのため、一度回収を終えた区域を後で回ると、また資源物が出ているのです。こうなると回収作業は困難を極めます。お住まいの地域や当日の天候によって回収時間に変動が生じると思いますが、どうか市民の皆様には御理解と御協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

（小畑・水野・豊岡）

防寒着着用

中学生職場体験受け入れ

当組合では、事業の柱の一つとして、リサイクルに対する関心を高めてもらい、職業や将来の進路を選ぶ道標として、地元中学生の職場体験学習を積極的に受け入れており、今年も例年通り実施致しました。

受入先の組合員と中学生から職場体験を終えての感想をご紹介致します。

日興紙業商事株式会社

当社では九月一八・一九日に東村山市立東村山第二中学校の生徒二名を、十月二二・二三日に東村山市立東村山第四中学校の生徒二名をそれぞれ受け入れました。

体験学習は両校とも二日間、午前九時から午後三時まで行いました。新聞、段ボール、雑誌等の紐切りをはじめ、段ボール回収車に同乗してもらって、住民との対応や話し方を学んでもらい、ヤードでの分別作業などを体験していただきました。生徒さん達は慣れない仕事を一生懸命頑張ってくれました。

休憩時間は当社従業員と懇談し、働くことの大切さ、それと古紙リサイクルの仕組みや大変さを分かってもらえたと思います。私達も中学生から笑顔と若さをもらう事ができました。

これから少しでも古紙リサイクルのことを理解し、興味を持ってもらえれば幸いと思います。

当社での体験学習に参加した両校生徒の皆さん、お疲れ様でした。今後もこの様な活動に当社は協力していきたいです。（若林）

日興紙業商事で分別作業を行う
東村山第四中学校の生徒

ＪＰ資源株式会社

去る九月一八日・一九日の二日間にわたり恒例の中学生職場体験学習があり、当社では東村山市立東村山第二中学校の生徒を受け入れ、古紙の回収・ヤードでの選別・梱包等の古紙が原料になるまでの作業と、組合事務所での「リサイクル勉強会」、牛乳パックを使用した「紙すき体験」を行いました。

一日目は最初に朝礼を行い、回収・選別等の作業を体験。生徒たちには作業をする上で、大切な「安全第一」について説明を行い、古紙の品種や禁忌品について学び、その後、実際に作業を行いました。終了後に生徒の皆さんから、「紙なら何でも一緒で良いのかと思ったが、新聞・雑誌・段ボール等選別（分別）することがとても大事ですね。」との感想が聞かれ、私たちも改めて、市民の皆様が分別していただける協力があって、リサイクルが推進されるのだとあらためて思いました。

二日目は、午前中は前日に引き続き古紙回収、ヤードでの作業体験を行い、午後からは組合事務所で日興紙業商事や三栄サービスに出向した生徒さん達と共に「リサイクルの基礎知識」を勉強しました。その後、テストを行いましたが、生徒の皆さんは全員優秀な成績でした。（ちょっと褒めすぎかな？）最後に、みんなで楽しく「紙すき」作業の経験をして頂きました。

二日間の短い期間でありましたが、生徒の皆さん、また私たちにも有意義な時間を過ごせた、貴重な二日間でありました。生徒たちがとても熱心に「職場体験学習」をしたのを見て、私たちの仲間がまた、一人増えたように思え、「ちょっとうれしい」です。次回も楽しみです。（佐藤）

紙すき体験を行う
東村山第二中学校の生徒

参加した中学生の感想

先日の職場体験ではお世話になりました。お忙しいところ、僕達のためにお時間を作って頂き、ありがとうございました。

実際に仕事を体験し、回収作業は力仕事で大変でした。分別して出してくれないと、ヤードでの分別作業が大変になってしまうので、分別の大切さが分かりました。貴重な体験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

（一部抜粋）

秋のリサイクルイベントに参加しました

秋のリサイクルイベントが各市で開催され、当組合では九月一三日（土）に行われた小平市環境フェスティバル、一〇月一九日（日）に行われた東村山市リサイクルフェアと清瀬市市民祭りにそれぞれ参加致しました。いずれのイベントも晴天に恵まれたこともあり、多くの方が来ておりました。

小平市環境フェスティバルではリサイクル品交換として、古布類、育児用品、おもちゃとポケットティッシュとの交換と牛乳パック枚トイレットペーパーとの交換を行いました。

東村山市リサイクルフェアでは、牛乳パックとトイレットペーパーの交換の他、リサイクル品の分別ゲーム、一〇月からの資源物回収方法変更に関するパネル展示を行いました。

清瀬市市民祭りでは、当組合のトイレットペーパー「ブーメラン」の販売を行いました。

リサイクル品、牛乳パックの交換では、事前に広報誌等で案内をしたこともあり、私達の予想を上回る多くの皆様からの持ち込みがありました。中には親戚や友人、ご近所や、職場の同僚の方等に、交換への参加を広く呼び掛けて下さった方もおられました。

なお、牛乳パック六枚と、トイレットペーパー一個を交換しましたが、回収コストや生産コストを全く無視しています。一リットルの牛乳パック六枚を原料にして、トイレットペーパーを一個作ることができる（全国牛乳容器環境協議会調べ）ことを理解してもらうために実施致しました。

リサイクル品の分別ゲームでは、短時間で全て正確に分別された方をはじめ、家族で参加されるケースも多く、相談し合いながら分別される光景が見受けられました。

今年も各市のリサイクルイベントに参加し、多くの皆様とふれあう機会に恵まれました。リサイクル品、牛乳パックをお持ちになられた皆様、リサイクル品分別ゲームに参加された皆様に、この場を借りて心より感謝申し上げます。

（豊岡）

日中古紙セミナーに参加

昨年一一月一九日に星陵会館にて開催された第三回日中古紙セミナーに参加した。

同セミナーは、日中の製紙・古紙業界の交流を通した両国間の相互理解と発展を目的に二〇一一年に初めて開催され、第二回は中国での開催、第三回となる今回は日本での開催となっている。

当日は、所管である経済産業省始め、（公財）古紙再生促進センター、製紙業界、古紙業界から多くの来賓、参加者が集まった。中国からも業界関係者が多数参加していた。

講演は、中国の製紙業界の求める日本からの製紙原料、そして中国の製紙・古紙業界の現状といった観点で、製紙メーカーから二名、製紙・資源回収の協会関係者二名から講演があった。

講演はワイヤレスホンによる同時通訳を聞きながら、資料を見る形で、聞き取りづらい点もあったが、何とかついていくことが出来た。取りまとめると、中国の製紙産業が成長期から成熟期に入り、転換期を迎えており、中小企業が淘汰され、集約されながらまだまだ伸びていること、中国国内での古紙回収率がまだまだ低く、日本の古紙を必要としているがその品質基準について定めていきたい方向であること、両国間の製紙・古紙業界の連携を益々深めていきたいとのことであった。

日本国内の古紙回収量の伸びとともに、国内だけでは処理できず、海外輸出は古紙リサイクルシステムを維持していくにはいまや不可欠となっている。そういった意味でも日本の古紙の最大の輸出国である中国との関係は重要だ。本セミナーも、日中間の政治的緊張から二〇一二年には開催を延期した経緯があるが、対中関係が資源循環システムにも影響することを考え、交流して行くことが必要だ。

（紺野）

株式会社トシマ視察報告

去る一〇月二八日（火）、古繊維問屋・株式会社トシマを視察した。

参加メンバーは、西東京市役所ごみ減量推進課・山本課長、遠藤係長他二名、当組合の吉浦理事長、西東京市の行政回収担当組合員（奥山商店㈱・㈱藤本チェーン・㈲土井商店）の責任者、事務局の計九名。

今回の視察会の目的は、一〇月一日より、古布の回収品目が拡大され、カバン・ベルト・ネクタイ・羽毛布団等の資源回収が可能となったことに伴い、西東京市で回収された古布類が入荷している㈱トシマを視察し、西東京市と当組合の双方で、古布の再資源化処理ルートを再確認するためのものである。

中古衣料の選別作業の様子

入荷したカバン類

当日は、午前九時五〇分頃に、㈱トシマ・本社工場（埼玉県蕨市北町四丁目）に到着。同社の上田治男代表取締役会長、上田哲也代表取締役社長にお出迎え頂いた。

本社工場では、上田社長による説明に基づき、海外輸出用の中古衣料や肌着等の布質の状態（汚れ・破れ等）や、素材・種類毎の選別、計量、梱包の過程を視察した。上田社長の説明では、今回西東京市で資源回収拡大された品目（カバン・ベルト・ネクタイ等）も順調に入荷しており、中古衣料と同様の選別・計量・梱包をして出荷しているとのこと。

中古衣料の梱包品

羽毛布団

しかしながら、布団・羽毛布団の類は、昨今、資源回収品目として急浮上してきたため、受け入れてはいるものの、再資源化ルートの確立が未だ追い付いておらず、「全国ウエイスト組合連合会」で、ルートの確立にむけて早急に検討を進めている最中であるとのことだった。

本社工場の見学終了後、戸田工場（埼玉県戸田市美女木東二丁目）に移動。この工場は、まだ完全に完成してはいないが、かなり大きな工場であり、工業用のウエスの素材・色毎の選別・裁断・計量・梱包作業が行われていた。

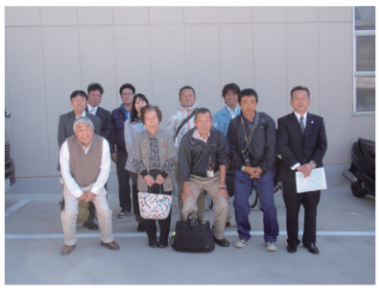
また、国内で集められた靴も少し見せて頂いたが、殆どが使い古し（履いて汚れたり破れたりしたもの）で、再資源化出来ないため、靴の資源品目拡大は現時点ではお断りしているとのことだった。

視察終了後、戸田工場の正面玄関前で記念撮影し、視察会は無事終了。

西東京市の山本課長他参加者からは、古布の再資源化ルートについて非常によく勉強になったとのお言葉を頂いた。

今回の視察会に、ご多忙のところ、ご参加頂いた西東京市・ごみ減量推進課の関係者の皆様、ご協力頂いた株式会社トシマの上田社長以下関係者の皆様に、改めて心より厚く御礼申し上げます。

（柿崎）



戸田工場の正面玄関にて

大阪・リサイクル施設視察報告

去る一一月二八日（金）東大阪市にある三洋商事(株)本社東大阪リサイクルセンターを訪問、産業廃棄物の解体処理で一〇〇％のリサイクル率を目指している作業現場を視察した。

今回訪れた東大阪市は河内平野の中央に位置し、大阪市、八尾市、大東市と接し、東は奈良県生駒市と接している。平成一七年四月、中核市に指定され、大阪府内では大阪市、堺市の両政令指定都市に次ぐ第三位の人口を有する。また、東大阪市は「モノづくりのまち」として東京都大田区とならび全国に知られており、二〇〇九年に中小企業で働く人たちが集結し開発した人工衛星「まいど一号」が打ち上げられ話題を呼んだことは記憶に新しい。東大阪市菱江の三洋商事(株)本社は阪神高速東大阪線中野出口から五分、ラガーメンの憧れ近鉄花園ラグビー場も近い。

リサイクルセンターに到着、入口の植物に囲まれた木製フェンスに書かれた「地球にありがとう」の文字が目に飛び込んできた。たくさんの社員の皆様の元気な挨拶で迎えられ研修会場へ向かい初めに会社概要の説明を受ける。

三洋商事(株)の会社設立は昭和三二年三月、産業廃棄物の収集運搬と処理を主に行っており、平成一一年一月、現在の地に新本社屋（東大阪リサイクルセンター）が竣工した。

年々複雑化する産業廃棄物の処理を行う上で課題となる環境問題等については環境・情報・安全の三つのマネジメントシステムの運用を軸に取り組んでおられ、環境マネジメントシステムＩＳＯ14001、情報セキュリティーマネジメントシステムＩＳＯ27001、労働安全衛生マネジメントシステムＯＨＳＡＳ18001の認証を既に取得している。更にこれら認証取得しているマネジメントシステムの複合型についても二〇〇九年一二月に認証取得している。

これまでの廃棄物の処理は一括して粉砕して貴金属を選別・回収しそれ以外の非金属やプラスチックなどは埋め立て廃棄されてきたが、三洋商事(株)は搬入されたものを全て手作業で解体し、素材ごとに分類し再資源化の専門業者へ引き渡すとのこと。携帯電話から空調機や冷蔵庫のような大型機器類も丁寧に解体・分解する。早速現場を拝見したが、ご説明いただいた通り、電子基板や携帯電話など、作業場には分解された部品が素材ごとに分けられ、丁寧な仕事ぶりが伺えた。事務用品のバインダーなども、一冊一冊金属部分を外す作業を黙々とこなしていた。手作業の解体となると、やはりコストが気になるところだが、二次解体工程を刑務所内作業所へ依頼することによってコストを抑える工夫をしているそうだ。また、平成一五年から地域の障害者の雇用を積極的に行い、現在は就労継続支援Ａ型事業所「ワークワーク」に引継ぎパソコン等の解体現場で作業に従事されているとのこと。

取扱い品の中には機密情報が入った機器類も多くあるとのことで、セキュリティールームにも案内された。カード認証の入口を入り、金属探知機ゲートをくぐる。納入された携帯電話などは、処理前にここで一つ一つ検品し製造番号等のデーターを入力し管理する。

検品後は解体ラインで解体し各素材ごとに分別する。解体作業は熟練した技術に加え体力、根気が必要と作業の様子を伺って強く感じた。

センター内を一巡したが屋外、屋内ともにどこの作業現場もきれいに整頓されごみが落ちていないことに関心させられた。また作業中の事故を防止するため、工具等の整理・整頓、センター内外の掃除を社員一人一人に徹底させているそうだ。物が煩雑に置いてあると作業の効率が下がり事故につながるという。これは現場に限らず全社で実践しているとのこと。

さらに地域の学校にエコスクールとして紹介し、リサイクルの啓蒙活動にも力を入れているそうだ。

視察を終え「地球にありがとう」

をバックに記念撮影。

再資源化一〇〇％の実現は企業努力と共に、商品化にあたりリサイクルを前提とした商品開発のさらなる進化と消費者の意識の向上があって実現するものと、改めてリサイクルシステムの重要性を再確認した。

今回の視察にあたり、三洋商事様をご紹介いただいた奈良県資源回収事業協同組合山原会長様、京都府再資源化事業協同組合中島専務理事様、見学会にご同行いただいた株式会社Ｃｅｅ野崎様、三洋商事(株)坂下常務様と社員の皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。（山本）

日資連青年部創立三〇周年式典・祝賀会に参加しました

一一月二三日にグランドプリンスホテル新高輪の天平の間にて、日資連青年部創立三〇周年の記念式典が開催され、参加してまいりました。来賓、関係者、報道各社総勢一〇三名が出席され、盛大な式典でした。

まず、各県青年部長の紹介、登壇があり、関資連関根青年部長のご挨拶で開会しました。続いて開催地区担当副会長として当組合の吉浦理事長の挨拶となりました。次に現日資連・紺野琢生青年部長が主催者を代表して挨拶しました。やはり、大勢の方々を前にしていつもより緊張している様子の紺野君でしたが、こういう時代だからこそ仲間との結束が必要なんだという思いは伝わってきました。

その後、歴代青年部長が登壇し、感謝状と記念品の授与の後、歴代青年部長から当時のお話しや青年部に対する思いが語られました。

来賓としてご祝辞を頂いた経済産業省産業技術環境局リサイクル推進課・深瀬聡之課長からは、青年部が元気な業界は今後も有望であるとの言葉を頂き、青年部の皆さんも気持ちを新たにしていました。続いて、日資連・飯田俊夫会長、東北資連青年部連絡協議会・本間義通会長から祝辞を頂き、リサイクル議員懇談会会長・甘利明衆議院議員からの祝電が披露され、式典の部は閉会となりました。

式典後、場所を同じく天平の間で三〇周年記念パーティーの部では、各地の青年部員やＯＢの皆様と交流することが出来ました。そして、祝賀会のアトラクションでは、フレアバーテンダーの富田晶子さんが登場し、楽しく華やかなショーでパーティーを盛り上げました。

フレアバーテンダー
富田晶子さん

最後には、参加した青年部員全員が集まって集合写真を撮りました。全国の青年部員がこれだけ集まるとさすがに圧巻でした。

当組合専務理事の紺野君が現青年部長、私が会計ということもあり準備段階からお手伝いをさせていただきましたが、大きなトラブルも無く無事開催できたことに大きな喜びを得られた会になったと思います。また、改めてその歴史と全国各地に広がる青年部の横のつながりを感じることが出来ました。

これからは、地元東多摩青年部のためにも積極的に参加をして交流を図っていきたいと思います。（福田）

行事・行動

【平成二六年一〇月】
一日：東村山市資源物戸別回収開始
三日：小平ＲＣ責任者会議
六日：小平市委託業務打合せ
八日：東村山市戸別回収打合せ
東資協理事会
九日：業務委員会
定例理事会
一四日：業務委員会
一五日：東村山市戸別回収打合せ
一七日：青年部会議
一八日：日資連理事会
一九日：東村山市リサイクルフェア
清瀬市市民祭り
二一日：(株)トシマ事前見学
二三日：東村山第四中学校職場体験学習（二四日まで）
二六日：東村山市市制施行五〇周年記念式典
二八日：(株)トシマ見学
二九日：業務委員会
三〇日：東久留米市回収協議
【一一月】
三日：業務委員会
五日：東村山戸別回収打合せ
六日：東リ協会行政回収研究会
七日：中島町ＲＣ視察
小平ＲＣ責任者会議
小平市業務打合せ
財務委員会
一一日：定例理事会
一四日：小平ＲＣ健康診断
一五日：東資協多摩拡大理事会
一七日：東村山市リサイクルフェア実行委員会
一八日：広報委員会
一九日：日中古紙セミナー
二〇日：西東京市回収打合せ
二一日：古紙持ち去り意見交換会
東久留米市行政回収、柳泉園ＲＣ共同受注検査
二六日：東村山市行政回収共同受注検査
東村山市戸別回収打合せ
東村山市業者連絡会議
西東京市担当業者会議
二七日：東村山市行政回収共同受注検査
二八日：大阪・三洋商事(株)視察
【一二月】
一日：東村山市行政回収共同受注検査
二日：西東京市行政回収打合せ
三日：東村山市行政回収共同受注検査
都議会フォーラム
四日：東村山市共同受注検査
五日：小平市ごみ減量推進会議
小平ＲＣ責任者会議
一〇日：業務委員会
西東京市受託業者会議
一一日：財務委員会
定例理事会
一二日：清瀬市古紙持去ＧＰＳ追跡調査
一五日：東村山市戸別回収打合せ
東村山市古紙持去ＧＰＳ追跡調査
一八日：小平市古紙持去ＧＰＳ追跡調査
一九日：広報委員会
東久留米市回収協議
二〇日：組合忘年会
三〇日：仕事納め
【二〇一五年一月】
五日：仕事始め
六日：新年挨拶回り
七日：青年部会議
八日：中央会新年賀詞交歓会
九日：古紙センター新年会
：東リ協会・都庁挨拶回り
：小平ＲＣ責任者会議
：業務委員会
：定例理事会
一九日：古紙持ち去り意見交換会
二〇日：東村山市戸別回収打合せ
：小平市「リサイクルキャラバン」
二七日：東リ協会・専ら物等廃掃法研究集会
三〇日：組合新年会

編集後記

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

まずは、直言拝聴にご寄稿いただきました古紙ジャーナルの本願社長、ありがとうございました。貴紙はいつも拝読させて頂いてますが、本紙においては市民の皆様にも古紙事情を分かり易く解説して頂き、私も勉強になりました。

さて、一面の理事長挨拶にもありましたが、資源業界、そして当組合も様々な動きがありました。特に戸別回収化には、相当の時間と知恵を絞って組合員一丸となって取り組んだことで、無事にスタート出来ただけでなく、新たな気づきも得ることが出来、今後さらなる安全とサービスの向上につなげていきたいと思います。

私自身も、日資連の第九代青年部長を拝命し、創立三〇周年記念式典を盛大に開催させて頂き、全国の青年部員の思いを一つにすることが出来ました。また、一三年間お世話になった青年会議所も無事卒業することが出来ました。

盛りだくさんの二〇一四年でしたが、二〇一五年はさらに盛って昨年以上に頑張っていきたいと思います。（ＴＫＯ）